



第13回川崎港トライアスロン in 東扇島大会

コロナ渦での開催

エイジ審判長 新津 桂一郎

2020年夏過ぎまで多くの大会が中止を余儀なくされ、本大会も大会当日まで社会情勢を見ながら気の抜けない日々が続きました。参加者・応援者・関係者の皆さんの健康を第一に大会開催する事を念頭において、COVID-19対策をはじめ受付方法、導線、レースコース他、様々なシミュレーションを重ねてまいりました。アスリートの皆さんも果たして大会は無事開催されるのかエントリーしてから大会当日まで不安な日々を過ごされていたと思います。そんな厳しい情勢の中、皆さんのおかげでなんとか開催に至る事が出来ました。エントリー数も定員に達し皆さんの意欲を強く感じる事ができ私達も大変勇気付けられました。ありがとうございました。

様々な大会の中止が相次ぎエリートの大会も例外ではなく、JTU日本選手権に出場するJTU関東ブロックと東京都の選手選考レースを開催してほしい旨、JTU関東ブロック協議会、一般社団法人東京都トライアスロン連合(TMTU)の要請もありJTU関東ブロック選手権および東京都選手権を併催して開催する事となりました。幸いキッズ・ジュニアやエイジ選手にとっては日本を代表するトップアスリートの生の姿を見る絶好の機会ともなり、きっと有意義な大会になった事でしょう。大会当日は、気温21℃、水温24.4℃、風も一日穏やかで最高のトライアスロン日和でした。幸い大きな事故もなく皆様のご協力のもと無事大会を終える事が出来ました。また大会後、事務局に新型コロナウイルス感染症発症の報告もありませんでした。

今年の大会では、例年にない様々な変更を行いました。入場者全員の検温・受付を実施し選手に付き添われる保護者・応援者の数を限定でお願いしました。応援で大声を出さない。競技中以外、常にマスクを着用。タオル・飲み物の共用をしない、唾や痰を吐かない(常時マナーではありますが)。各所でこまめに消毒等を皆さんにお願いしました。選手への競技説明会を事前にオンラインで行い、当日のボディへのナンバリングを無くしました。コースは、アスリートの皆さんが練習不足となっている事も考慮に入れ、高校生・一般と選手権の競技距離をスプリント・ディスタンス(総合距離25.75km/スイム750m・バイク20km・ラン5km)に、スタートは、8秒間隔のタイミングスタートとトランジションでの密を避け落ち着いて行動していただく為に、T1、T2タイムを総合タイムから除外して行いました。

大会の問題点としては、トランジションタイムの除外の是非です。立派な競技の一部であり着順に大きく影響する大事な部分です。このタイムを除外し競技として成り立つのか疑問もありましたが、健康第一と考えるのであればこの状況下では致し方ありませんでした。また、総合着順の判定にかなりの時間を要してしまいました。正確で迅速な着順判定は審判長の大事な役割の一つですが叶いませんでした。理由は8秒のタイミングスタートとT1、T2タイム除外の影響で確認作業が増えた為です。どの大会の審判長も選手の皆さんがこの日を目指し練習を重ねた結果をより大切に扱いたいと思っています。その為、リザルトが遅くなることもありますがどうかご理解ください。

今後も大会開催についてコロナ渦で予断を許しませんが、出来ない事を憂うでなく、出来る事だけに目を向け共に協力し状況を見据えながら進んでまいりましょう。トライアスリートの得意とする持ち前の現状に対応する力を発揮していただきたいと思っています。また大会でお会いできる事を楽しみにしております。

